

井上ひさしとモーツァルト

— 『太鼓たたいて笛ふいて』に残るオペラへの見果てぬ夢—

坂本 麻実子

INOUE Hisashi and Mozart

— An Unfinished Dream to Opera Survived in *Taiko-Tataite-Fue-Fuite* —

SAKAMOTO Mamiko

E-mail : msakamot@edu.u-toyama.ac.jp

キーワード：井上ひさし，太鼓たたいて笛ふいて，林芙美子，モーツァルト，オペラ

keywords : INOUE Hisashi, *Taiko-Tataite-Fue-Fuite*, HAYASHI Fumiko, Mozart, Opera

1. 井上ひさしとオペラ

井上ひさし(1934-2010)の『太鼓たたいて笛ふいて』(2002年7月こまつ座初演)は女流作家林芙美子(1903-1951)を主人公にした音楽劇で、読売演劇大賞最優秀作品賞をはじめ数々の演劇賞を受賞し、井上の音楽劇の中でも評価が高い。芙美子を演じた大竹しのぶも読売演劇大賞の大賞、最優秀女優賞を受賞した。『太鼓たたいて笛ふいて』はこまつ座のための作品としては1984年4月の旗揚げ公演『頭痛肩こり樋口一葉』⁽¹⁾以来、井上が好んで書いた6人の役者による音楽劇の系譜に連なる⁽²⁾。しかし、内容的には『太鼓たたいて笛ふいて』はその前作、すなわち新国立劇場のために書いた『夢の裂け目』(2001年5月初演)の延長上にあり、この2作品で井上はオペラの翻案を試みたと筆者は考えている。

井上は作劇活動の早い時期からオペラに関心があり、すでに『十一ぴきのネコ—子どもとその付添いのためのミュージカル—』(1973年7月テアトル・エコー公演)の前口上の中で高名なオペラ歌手のためにオペラ台本を書いたことがあると言っていた。この台本は井上好みの言葉遊びを満載していたので、オペラ歌手から「何ですか、この台本は。語呂合わせと駄洒落ばかりじゃありませんか。下品です。」と突き返され、上演には至らなかった(井上1982:189)。その後、井上は歌舞伎の脚本作者河竹黙阿彌(1816-1893)を主人公にした音楽劇『黙阿彌オペラ』(1986年1月こまつ座初演)を書き、黙阿

彌の代表作『三人吉三』の名セリフ「月は朧に白魚の」をビゼー Bizet, Georges (1838-1875)のオペラ『カルメン Carmen』のアリア「ハバネラ Habanera」の旋律に乗せて役者に歌わせ、最大の見せ場とした⁽³⁾。さらに、井上は作曲家宇野誠一郎(1927-2011)との対談(1988年10月28日)でオペラへの夢を次のように語っていた。

「これから宇野さんとやってみたいのは、オペラですね。いままで名作といわれているオペラを僕なりに全部、作り直してみたいと思っています。作詞も含めて、オペラを日本の20世紀に合わせて作り直したいんです。オペラっていうと何かかきこまった感じがするんですが、オペラを友だちみたいにして聞けたらどんなに楽しいだろうって思うんですね。」(井上1988:214)

井上が宇野と組んだオペラ翻案の最初の成果が2001年の『夢の裂け目』である。『夢の裂け目』で井上はドイツの作曲家ヴァイル Weill, Kurt (1900-1950)の代表作『三文オペラ Die Dreigroschenoper』(1928年ベルリンで初演)に描かれた19世紀末のロンドンの乞食たちの物語を昭和戦前・戦後の東京の紙芝居屋の物語に作り直し、劇中歌にはヴァイルと宇野の音楽を使用した⁽⁴⁾。『夢の裂け目』の公演初日を観た大竹しのぶが「わたしもこのような唄入りの芝居が演りたい」と言ったので、井上は「では、林芙美子の評伝劇を、宇野誠一郎さんとモーツァルト^(ママ)の音楽でなさいませんか」と誘い、『太鼓たたいて笛ふいて』の上演が実現した(扇田2011:175)。モーツァルト Mozart, W.A. (1756-1791)は数々

の傑作オペラを書いただけに、『夢の裂け目』の初演当時、井上はヴァイルの次にはモーツァルトのオペラを昭和戦前・戦後の林芙美子の物語に作り直し、モーツァルトと宇野の音楽を使うという構想をもっていたのではないか。

『太鼓たたいて笛ふいて』は『夢の裂け目』の翌年に初演された。ところが表1の劇中歌一覧⁽⁵⁾に示すように、井上は宇野の音楽を使ったがモーツァルトの音楽を使わなかった。井上は初演の前口上で「モーツァルト先生のご都合で、ベートーベン先生とチャイコフスキー先生に代わっていただいた」(扇田 2011: 176) という言い方で詫びた。井上がモーツァルトの代わりにベートーヴェン Beethoven,

L. van (1770-1827) とチャイコフスキー Tchaikovsky, P. I. (1840-1893) の音楽を使ったのはなぜか。井上はモーツァルトの音楽を使いこなせなかったのか。それとも、何か意図があってモーツァルトの音楽を使わなかったのか。

実はベートーヴェンとチャイコフスキーにはモーツァルトのオペラに触発された作品がある。ベートーヴェンはモーツァルトのオペラの旋律に基づく変奏曲を3曲も書いた。すなわちチェロとピアノのための『魔笛 Die Zauberflöte』の「娘か女房か Ein Mädchen oder Weibchen」の主題による12の変奏曲 op.66, 同じく『魔笛』の「愛を知る男たちは Bei Männern, welche Liebe fühlen」の主題による7

表1. 『太鼓たたいて笛ふいて』劇中歌一覧

場面	通し番号	タイトル []内は原曲の作曲者とタイトル
I-(1)	①	ドン! [Rodgers; ジップ Zip, 「パル・ジョーイ Pal Joey」より]
I-(2)	②	行商隊の唄 [宇野誠一郎; ドンズの応援歌, 「ひょっこりひょうたん島」より]
I-(3)	③	『放浪記』から「女給の唄」 [Tchaikovsky; Once Upon a Dream (日本名: いつか夢で), 「眠れる森の美女 Sleeping Beauty」より]
I-(3)	④	ひとりじゃない [宇野誠一郎; ひとりじゃない, 「ひょっこりひょうたん島」より]
I-(4)	⑤	椰子の実 [大中寅二; 椰子の実 (島崎藤村作詞)]
I-(4)	⑥	物語にほまれあれ [Beethoven; 自然における神の栄光 Die Ehre Gottes aus der Natur op.48-4]
I-(5)	⑦	姿焼きの唄 [Kramer; スカラ座の宵 (原題: In un palco della Scala)]
I-(6)	⑧	文字よ 飛べ飛べ [Beethoven; 美しいミンカよ, 行かねばならない Schöne Minka, ich muss scheiden WoO. 158a-16]
II-(7)	⑨	滅びるにはこの日本, あまりにすばらしすぎる [宇野誠一郎; 僕は地球を愛してる, 「ひょっこりひょうたん島」より]
II-(8)	⑩	ぼくが手がけた三つの音楽番組 [Dresser; はるかなるウォバッシュ川の堤で On the Banks of the Wabash, For Away]
II-(9)	⑪	ハレルヤ [宇野誠一郎; ハレルヤ, 「ひょっこりひょうたん島」より]

備考: 井上 (2005) より作成。場面欄のローマ数字は幕, ()内の数字は場を示す。

つの変奏曲 WoO.46, ヴァイオリンとピアノのための『フィガロの結婚 Le Nozze di Figaro』の「伯爵さまが踊るなら Se vuol ballare, Signor Contino」の主題による12の変奏曲 WoO.40である。チャイコフスキーもモーツァルトのオペラ『ドン・ジョヴァンニ Don Giovanni』を愛し、その自筆譜を見たときは感激してモーツァルトの小品4曲を管弦楽用に編曲し、「モーツァルティアーナ Mozartiana」(op.61)と名づけた(伊藤 2005: 140-141)。モーツァルトとの関係に着目すれば、井上が単なる思いつきでベートーヴェンとチャイコフスキーをモーツァルトの代役に立てたとは思えない。井上はモーツァルトのオペラに影響を受けた作曲家の音楽を使用し、モーツァルトの音楽を使わずともモーツァルトの音楽を連想させるという、一種の「本歌取り」の手法を試みたのではないか。

そこで表1で『太鼓たたいて笛ふいて』の劇中歌全11曲を確認すると、まず井上が大竹に語ったとおり宇野の音楽を用いた歌が4曲ある(②行商隊の唄, ④ひとりじゃない, ⑨滅びるにはこの日本, あまりにすばらしすぎる, ⑩ハレルヤ)。この4曲には井上・宇野のコンビによる人形劇『ひょっこりひょうたん島』(1964年4月~1969年3月NHKテレビ放送)の挿入歌の旋律を使用する。次にベートーヴェンの音楽を用いた歌が2曲(⑥物語にほまれあれ, ⑧文字よ飛べ飛べ), チャイコフスキーの音楽を用いた歌が1曲(③『放浪記』から「女給の唄」。以下「女給の唄」と略する)あり、この3曲ではモーツァルトの音楽との関連が問題になる。『太鼓たたいて笛ふいて』の成立過程をみれば井上のモーツァルト受容の問題は音楽劇としての『太鼓たたいて笛ふいて』の重要な研究課題であり、筆者はベートーヴェンとチャイコフスキーの音楽を用いた劇中歌の本歌にあたるモーツァルト作品を探してみたい。

なお表1には宇野, チャイコフスキー, ベートーヴェン以外の作曲家の音楽を使った歌も4曲ある(①ドン!, ⑤椰子の実, ⑦姿焼きの唄, ⑩ぼくが手がけた三つの音楽番組)。このうち, ⑦姿焼きの唄はその旋律にクラメル Kramer, Gorni (1913-1995)の「スカラ座の宵」(原題 In un palco della Scala)を使用したところをみると、井上はオペラをあきらめてはいないと思う。スカラ座とはもちろんオペラの殿堂として名高いミラノ・スカラ座であ

り、「スカラ座の宵」の歌詞には古きよき時代のオペラの人気作が盛り込まれている⁽⁶⁾。『太鼓たたいて笛ふいて』にモーツァルトのオペラの音楽が投影されている可能性は皆無とは言えないだろう。そこで、『太鼓たたいて笛ふいて』の劇中歌の本歌に相当するモーツァルトのオペラ作品の特定を試み、モーツァルト受容の観点から『太鼓たたいて笛ふいて』に井上のオペラへの夢を読み取ってみたい。以下、『太鼓たたいて笛ふいて』と『放浪記』の引用は新潮文庫本に基づき()内に新潮文庫本の頁数を付す。

2. チャイコフスキーを使った劇中歌とモーツァルトとの関係

まず、モーツァルトに代えてチャイコフスキーの音楽を使った劇中歌を検討する。『太鼓たたいて笛ふいて』の劇中歌③女給の唄は昔の男に宛てた手紙の歌で、美美子の出世作『放浪記』(1930年)に挿入された詩を基に作られている。「女給の唄」の旋律はディズニー映画『眠れる森の美女 Sleeping Beauty』(1952年)の中でオーロラ姫が歌う「Once Upon a Dream」で、日本名は「いつか夢で」である。「いつか夢で」の旋律はチャイコフスキーのバレエ音楽『眠れる森の美女』(op.66)で演奏される有名なワルツであるが、井上は「女給の唄」の原曲をオーロラ姫の歌の方にした。

「女給の唄」は『太鼓たたいて笛ふいて』の設定ではポリドールレコード文芸部員の三木孝が『放浪記』を題材にした流行歌を作ろうという企画から生まれた。まず三木は美美子の母キクと4回に分けて『放浪記』を朗読する。ただし、三木とキクが読む『放浪記』にはオリジナル版『放浪記』には書かれていない詩句を含み、「女給の唄」の出典は井上版『放浪記』の方である。

表2に示すように「女給の唄」の原詩に該当する部分を『放浪記』井上版とオリジナル版で比べてみよう。三木が読むA部分はオリジナル版にはない部分もあるが(1行目の前半と2行目)、内容的にはほぼ同じである。キクが読むB部分はオリジナル版のマノンと雷門助六を欠くが、内容的にはほぼ同じである。キクが読むC部分はオリジナル版には対応する部分が存在しない。すなわち「今の亭主は胸の病気にて候/病気のせいで嫉妬深く候/カフェからの帰りがおそくなると烈火の如く怒り候/

表2. 「女給の唄」原詩－井上版『放浪記』とオリジナル版『放浪記』の比較

井上版『放浪記』	オリジナル版『放浪記』
<p>A 三木が読む部分 (1回目)</p> <p>カフェでもらった御給金でインキを買って帰り候 そのインキで一筆したためまいらせ候 なんとかしておめもじいたしたく候 お金がほしく候</p>	<p>インキを買ってかえる</p> <p>何とかしておめもじいたしたく候 お金がほしく候</p>
<p>B キクが読む部分 (1回目)</p> <p>たゞの十円でもよろしく候 浴衣と下駄を買いたく候</p> <p>シナそばが一杯たべたく候</p>	<p>たゞの十円でもよろしく候 マノンレスコオと、浴衣と、下駄を買いたく候 シナそばが一杯たべたく候 雷門助六をききに行きたく候</p>
<p>C キクが読む部分 (2回目)</p> <p>いまの亭主は胸の病気にて候 病気のせいで嫉妬深く候 カフェからの帰りがおそくなると烈火の如く怒り候 すりこぎでわたしを十回も二十回も打ち候</p>	
<p>D 三木が読む部分 (2回目)</p> <p>朝鮮でも満州へでも働きに行きたく候 たった一度おめもじいたしたく候 本当にお金がほしく候</p>	<p>朝鮮でも満州へでも働きに行きたく候 たった一度おめもじいたしたく候 本当にお金がほしく候</p>

備考：井上 (2005), 林 (2012) より作成。

表3. 「女給の唄」とその原詩の対応関係

「女給の唄」	原詩の対応する部分
<p>わたしは夜に咲く花よ カフェの夜のかわいい壁の花よ お土産ぶらさげて帰ると やきもち亭主 待っていて</p> <p>すりこぎで からだ中 打ちますわ</p> <p>ネエ あなたに一目 会いたいわ お金を十円いただいて シナそばを三杯は たべたいわ</p> <p>わたしは夜に咲く花よ カフェの夜のかわいい壁の花よ できればもっといただいて 松島か 満州大連へ 行きたいわ お返事を待ってます</p>	<p>いまの亭主は胸の病気にて候 病気のせいで嫉妬深く候 カフェからの帰りがおそくなると烈火の如く怒り候 すりこぎでわたしを十回も二十回も打ち候</p> <p>たった一度おめもじいたしたく候 たゞの十円でもよろしく候 シナそばが一杯たべたく候</p> <p>朝鮮でも満州へでも働きに行きたく候</p>

備考：井上(2005)より作成。原詩は表2の井上版『放浪記』に基づく。

すりこぎでわたしを十回も二十回も打ち候」(井上 2005: 17-18) という部分はオリジナル版に文章で記述された芙美子と野村吉哉の同棲生活を井上が詩の形式に書き直したものである。三木が読む D 部分はオリジナル版と同じである。

次に表 3 では「女給の唄」の歌詞を井上版『放浪記』の原詩と対照させてみた。「女給の唄」は B 部分の一部(「ただの十円でもよろしく候」と「シナそばが一杯たべたく候」)、D 部分の一部(「満州へでも働きに行きたく候」と「たった一度おめもじいたしたく候」)を使っているが、中心になるのは井上版『放浪記』の独自色が出ている C 部分である。特に「やきもち亭主待っていて／すりこぎでからだ中打ちますわ」(井上 2005: 36)の部分は歌の眼目で、この部分に注目すれば「女給の唄」の本歌として考えられるのはモーツァルトのオペラ『ドン・ジョヴァンニ』のツェルリーナの aria 「ぶってよマゼット Batti, batti, o bel Masetto」であろう。好色な貴族ドン・ジョヴァンニに誘惑された村娘ツェルリーナが婚約者のマゼットの機嫌を直そうとして「ぶってちょうだい」と歌う。井上は「ぶってよマゼット」を自分を打擲する野村を憎むも別れられない芙美子の歌に作り替えた。「女給の唄」は 2 回歌われ、1 回目は歌詞を作った三木が独唱し、2 回目は芙美子が独唱する。

なお、「女給の唄」には昭和戦前期の流行歌を意識した工夫がみられる。歌いだしの「わたしは夜に咲く花よ」という部分は 1931 年(昭和 6 年)の羽衣歌子のヒット曲でその名も「女給の唄」(西條八十作詞、塩尻精八作曲)の歌いだし「わたしゃ夜さく酒場の花よ」を踏まえている。さらに歌詞の 6 行目に「ネエ」を挿入し、「女給の唄」は渡辺はま子の 1936 年(昭和 11 年)のヒット曲「忘れちゃいやよ」、「突んがらこっちゃ駄目よ」に倣った「ネエ小唄」に仕上がっている。

3. ベートーヴェンを使った劇中歌とモーツァルトの関係

次に、モーツァルトに代えてベートーヴェンの音楽を使った劇中歌 2 曲を検討する。

『太鼓たたいて笛ふいて』の劇中歌⑥物語にほまれあれは、軍事色が強まる 1936 年(昭和 11 年)秋、『泣き虫小僧』という小説が時局に合わないと言

禁止処分を受けた芙美子に向かって三木が軍国政策に沿った物語を書けば売れると煽り、芙美子も三木に乗せられて従軍作家へと変貌する場面で歌われる。「物語にほまれあれ」はベートーヴェンの歌曲「自然における神の栄光 Die Ehre Gottes aus der Natur」の旋律を使い、1 回目は三木が独唱し、2 回目は芙美子と三木の二重唱になる。原曲の「自然における神の栄光」は合唱でも歌われるので、井上は「二重唱(上が芙美子、下から支えて三木)」(井上 2005: 76)と台本に指示を出すことができた。ヒロインとそれを支える男性の二重唱という点で、「物語にほまれあれ」の本歌にはモーツァルトのオペラ『魔笛』のパミーナとパパゲーノの二重唱「愛を知る男たちは」をあてたいと思う。「愛を知る男たちは」は前述のようにベートーヴェンが変奏曲の主題に使った音楽でもある。「愛を知る男たちは」を歌ったパミーナは愛の試練に耐えていくが、「物語にほまれあれ」を歌った芙美子は文筆で戦意高揚に協力していく。

『太鼓たたいて笛ふいて』の劇中歌⑧文字よ飛べ飛べは、戦地に赴いた芙美子の留守中、林家に住み込んだ島崎こま子(劇中歌⑤椰子の実の作詞者島崎藤村の姪⁷⁾。藤村はこま子と関係して小説『新生』を書いた)とこま子に手習いを教わったキクが手紙を書く楽しさを歌う。1 番はこま子、2 番はキクが独唱し、3 番はこま子とキクの二重唱となる。「文字よ飛べ飛べ」は林家を去るこま子に合わせて、ベートーヴェンの編曲民謡「美しいミンカよ、行かねばならない Schöne Minka, ich muss scheiden」(下線筆者)の旋律を使用しているが、女声による手紙の二重唱と言えばモーツァルトの『フィガロの結婚』の中の伯爵夫人とスザンナの二重唱「そよ風に Che soave zeffiretto」が有名であり、これが「文字よ飛べ飛べ」の本歌としてふさわしい。

4. チャイコフスキー、ベートーヴェン以外の作曲家を使った劇中歌とモーツァルトの関係

『太鼓たたいて笛ふいて』ではチャイコフスキーとベートーヴェン以外の作曲家の音楽を使用した劇中歌にもモーツァルトのオペラとの関係が認められるものがある。

オープニングの劇中歌①「ドン！」は大砲の音を

タイトルにしており、登場人物6人全員で歌う。その旋律はロジャース Rodgers, Richard (1902-1979) のミュージカル『パル・ジョーイ Pal Joey』の「ジップ Zip」である。この Zip とはストリッパーが服のファスナーを外すときの音だという（喜志 2006: 292）。ただし Zip とは弾丸が飛ぶ音の意味もあり、「ドン！」では「ドン！」を何回も繰り返して歌い、それによって日本を焦土化することになる戦争が近づく時代をあらわす。同時に「ドン！」の繰り返しは、まさに「ドン」で始まるモーツァルトのオペラ『ドン・ジョヴァンニ』序曲の冒頭で低く響く和音の連打を連想させる。これはドン・ジョヴァンニに殺された騎士長の石像が復讐にやってくる足音をあらわし、希代の色事師で殺人者のドン・ジョヴァンニの最後は地獄に落ちることを暗示する。

劇中歌⑩ぼくが手がけた三つの音楽番組は終戦後に GHQ 管理下のラジオ放送局に音楽プロデューサーとして転身した三木が歌う。アメリカのシンガーソングライターであるドレッサー Dreisser, Paul (1857-1906) が作り、現在はインディアナ州の州歌になっている「はるかなるウォバッシュ川の堤で On the Banks of the Wabash, For Away」の旋律に乗せて三木は GHQ の意向を汲んで製作した3つの音楽番組—「世界の名曲」（戦前のようにイタリアとドイツ—辺倒ではないクラシック音楽番組）、「ハリウッドからの音楽」（アメリカのポピュラー音楽番組）、「ジャズのお家」（アメリカのジャズ音楽番組）を芙美子に紹介する。それにしても三木が手がけた音楽番組はなぜ三つなのか。それは『ドン・ジョヴァンニ』のフィナーレでドン・ジョヴァンニが晚餐をとるときに楽士たちに3つのオペラ曲を演奏させたこと—ソレル Soler, Martin y (1754-1806) の『コーサ・ラーラ Cosa rara』, サルティ Sarti, Giuseppe (1729-1802) の『二人が争えば三人目が得をする Fra due litiganti il terzo gode』, そしてモーツァルトの『フィガロの結婚』からフィガロのアリア「もう飛ぶまいぞこの蝶々 Non più andrai, farfalone amoroso」でどれも人気があった—からの着想であろう。その晚餐の席に騎士長の石像が現れてドン・ジョヴァンニに改心を迫るが当人は拒絶し、その結果、石像によって地獄に落とされ、業火に焼かれて死ぬ。『太鼓たたいて笛ふいて』では「ぼくが手がけた三つの音楽番組」を歌って軍国から民主主義への転向を説く三木に対し、芙美子

は今度は拒絶する。戦前の従軍作家から一転し、戦後の芙美子は戦争に翻弄された庶民の無念と悲しみを小説に書き続け、そのために過労がたたって急死する。『太鼓たたいて笛ふいて』の芙美子は戦争に協力した責任を取って自らを罰したかのように書かれているが、それは井上が自分の思うままに生き、死を恐れなかったドン・ジョヴァンニに擬して芙美子を造形したからではないか。モーツァルトのオペラの中でも『ドン・ジョヴァンニ』が与えた影響力は最も大きいだろう。

5. 『ドン・ジョヴァンニ』という枠組み

さらに『太鼓たたいて笛ふいて』の冒頭と幕切れには『ドン・ジョヴァンニ』と重なり合う点があり、『ドン・ジョヴァンニ』は『太鼓たたいて笛ふいて』という物語の枠組みにも影響していると筆者は考える。

『太鼓たたいて笛ふいて』の冒頭を見ると、芙美子と三木という作家と原稿取りの関係にはドン・ジョヴァンニとレポレロの主従関係が投影されている。三木は芙美子から原稿をもらうために林家で見張りをしている。そして三木はもう4回も林家に来たのに原稿ができていないとキクに愚痴をこぼす。『ドン・ジョヴァンニ』の冒頭でもドン・ジョヴァンニの浮気の供をさせられた従僕のレポレロが騎士長の館で見張りをしており、「夜も昼も働いて *Notte e giorno faticar*」を歌って愚痴をこぼす。その傍らレポレロは主人の愛人相手のカタログを作っており、その一人で主人に捨てられたドンナ・エルヴィーラのために有名なアリア「カタログの歌 *Madamina, il catalogo è questo*」を歌う。この「カタログの歌」の趣向が『太鼓たたいて笛ふいて』に取り入れられ、三木は手帳に書き留めた林家の訪問日と原稿を書いていない芙美子の言い訳をキクに向かって一つ一つ読み上げるようになった。

『太鼓たたいて笛ふいて』の幕切れでは、急死した芙美子以外の登場人物たちが劇中歌⑪ハレルヤを歌って芙美子を偲ぶ。主人公が死んで登場しない点では『ドン・ジョヴァンニ』の幕切れも同様であり、レポレロをはじめ登場人物たちは自分たちを痛めつけたドン・ジョヴァンニの悲惨な最後に思いを馳せつつ、今後の人生を考えながら歌う。

かつて井上は少年時代から愛好したガーシュイ

ン⁽⁸⁾と比較して、モーツァルトの音楽は「めったに聴かない」(井上1998:72)と言っていた。しかし、『太鼓たたいて笛ふいて』の劇中歌を検討すると井上はモーツァルトのオペラ、特に『ドン・ジョヴァンニ』を聞き込んで作劇に生かしており、オペラに関心をもつ劇作家としてはモーツァルトを無視できなかったことがわかる。

6. 晩年の音楽劇の方向を決めた『太鼓たたいて笛ふいて』

井上は『太鼓たたいて笛ふいて』の中でモーツァルトの音楽を使わずともモーツァルトのオペラに造詣が深いことを示した。井上は個人的な好みもあるのか、音楽劇の劇中歌にはモーツァルトの音楽を1度しか使わなかった。すなわち『私はだれでしょう』(2007年1月こまつ座初演)の劇中歌「ヘギンズ中佐のための、突発的ほめ唄」の旋律にモーツァルトの歌曲「老婆 Die Alte」k. 517を使用した。それに対して『太鼓たたいて笛ふいて』でモーツァルトの代わりに使ったチャイコフスキーとベートーヴェンの音楽は『太鼓たたいて笛ふいて』以後も断続的に使用していた。まず表4で『太鼓たたいて笛ふいて』以後のチャイコフスキーの音楽の使用状況をみると、ロシア語の歌曲が使われている。すなわち『箱根強羅ホテル』(2005年5月新国立劇場初演)で

は「春の始めの頃だった To bylo ranneiu vesnoi」と「子守唄 Kolybel'naia pesnia」の2曲、『ロマンス』(2007年8月こまつ座初演)では「ただ憧れを知る者だけが Net, tol'ko tot, kto znal」, 「なぜ Otchego?」, 「信じるな, わが友よ ne ver', mor drug」の3曲が使われている。次に表5で『太鼓たたいて笛ふいて』以後のベートーヴェンの音楽の使用状況をみると、編曲民謡⁽⁹⁾と歌曲が使われている。すなわち『円生と志ん生』(2005年2月こまつ座初演)では編曲民謡「かわいい子猫 Das liebe Kätzchen」と「グレンコーの虐殺に The massacre of Glemcoe」の2曲, および歌曲「憧れ Sehnsucht」, 『箱根強羅ホテル』では編曲民謡「あゝ聖なる御方 O sanctissima」, 『夢の痂』(2006年6月新国立劇場初演)では編曲民謡「ジュディ, 類いまれなお前は Judy, lovely, matchless creature」, 『わたしはだれでしょう』では編曲民謡「森へ, いちごを摘みに Unsere Mädchen gingen in den Wald」である。

なお、『太鼓たたいて笛ふいて』は劇中歌以外にもベートーヴェンの器楽曲をBGMに使ったが(交響曲第3番「英雄」第1楽章), このような使い方は『組曲虐殺』(2009年10月こまつ座初演)にも見られる(ヴァイオリン協奏曲第3楽章)。

当初, モーツァルトと宇野誠一郎を使う計画だった『太鼓たたいて笛ふいて』は, モーツァルトからベートーヴェン, チャイコフスキーに変更したこと

表4. 井上ひさしによるチャイコフスキーの使用状況

作品名 ()内は初演	タイトル []内は原曲名
太鼓たたいて笛ふいて (2002.7)	『放浪記』から「女給の唄」 [いつか夢で Once Upon a Dream, 「眠れる森の美女 Sleeping Beauty」より]
箱根強羅ホテル (2005.5)	みんな人間よ [春の始めの頃だった To bylo ranneiu vesnoi op.38-2] 鬼ヶ島の子守唄 [子守唄 Kolybel'naia pesnia op.16-1]
ロマンス (2007.8)	ロマンス [ただ憧れを知る者だけが Net, tol'ko tot, kto znal op.6-6] なぜか [なぜ? Otchego? op.6-5] ボードビルな哀悼歌 [信じるな, わが友よ Ne ver', moi drug op.6-1]

備考: 井上(2005, 2010a, 2010b)より作成。

表5. 井上ひさしによるベートーヴェンの使用状況

作品名 ()内は初演	タイトル 歌曲は [] 内に原曲名を示す
太鼓たたいて笛ふいて (2002.7)	物語にほまれあれ [自然における神の栄光 Die Ehre Gottes aus der Natur op.48-4]
	文字よ 飛べ飛べ [美しいミンカよ, 行かねばならない Schöne Minka, ich muss scheiden WoO.158a-16]
	交響曲第3番「英雄」第1楽章 op.55 (BGM)
円生と志ん生 (2005.2)	泣く子も黙るシベリア送り [かわいい子猫 Das liebe Kätzchen Hess133]
	若い母親たちの嘆き [グレンコーの虐殺に The massacre of Glemcoe WoO.152-5]
	涙の谷から [憧れ Sehnsucht op.83-2]
箱根強羅ホテル (2005.5)	困ったときには [あゝ, 聖なる御方 O sanctissima WoO.157-4]
夢の痂 (2006.6)	主務官の仕事は [ジュディ, 類いまれなお前は Judy, lovely, matchless creature WoO.153-19]
私はだれでしょう (2007.1)	おそらく…ソング [森へ, いちごを摘みに Unsere Mädchen gingen in den Wald WoO.158a-16]
組曲虐殺 (2009.10)	ヴァイオリン協奏曲第3楽章 op.61 (BGM)

備考: 井上 (2005, 2010a, 2010b) より作成。

表6. 井上ひさしの音楽劇の劇中歌におけるチャイコフスキー, ベートーヴェン, 宇野誠一郎の音楽の使用状況 - 『太鼓たたいて笛ふいて』以後

タイトル ()内は初演年月	作曲家別にみた音楽の使用の有無			補足
	チャイコフスキー	ベートーヴェン	宇野誠一郎	
太鼓たたいて笛ふいて (2002.7)	有	有	有	音楽担当は宇野誠一郎
兄おとうと (2003.5)	無	無	有	同上
夢の泪 (2003.10)	無	無	有	同上
円生と志ん生 (2005.2)	無	有	有	同上
箱根強羅ホテル (2005.2)	有	有	有	同上
夢の痂 (2006.6)	無	有	有	同上
私はだれでしょう (2007.1)	無	有	有	同上
ロマンス (2007.8)	有	無	有	同上
ムサシ (2009.3)	無	無	無	音楽担当は宮川彬良
組曲虐殺 (2009.10)	無	無	無	音楽担当は小曾根眞

備考: 井上 (2005, 2010a, 2010b) より作成。

で、井上の晩年の音楽劇の一つの方向を決める作品になった。表6を見ると、『太鼓たたいて笛ふいて』以後、井上が劇中歌にチャイコフスキーとベートーヴェンの両方を用いた音楽劇は『太鼓たたいて笛ふいて』、『箱根強羅ホテル』の2作品、どちらか一方を用いた音楽劇は『円生と志ん生』、『夢の痂』、『私はだれでしょう』、『ロマンス』の4作品であり、これら6作品はすべて宇野とコンビを組んだ作品で宇野の音楽も使用する。そして、チャイコフスキーやベートーヴェンを使った音楽劇は2005年、06年、07年に集中して書かれている。まるで『太鼓たたいて笛ふいて』で蒔かれた音楽の種があちこちで開花したかのようであるが、この時期の音楽劇を生む土壌はモーツァルトのオペラが作ったと言えるだろう。

注.

- (1) 『頭痛肩こり樋口一葉』については坂本 2004 参照。
- (2) 井上の6人の役者による音楽劇の系譜については坂本 2009 参照。
- (3) 『黙阿彌オペラ』については坂本 2003 参照。
- (4) 『夢の裂け目』については坂本 2011 参照。
- (5) 『太鼓たたいて笛ふいて』劇中歌一覧は新潮社本(井上 2002)と新潮社文庫本(井上 2005)には掲載されているが、『太鼓たたいて笛ふいて』を収録した『井上ひさし全芝居 その六』(井上 2010a)では新潮社から出版されたのに劇中歌一覧が削除されたのは疑問である。
- (6) 「姿焼きの唄」の旋律に使用した「スカラ座の宵」に盛り込まれたオペラ作品を登場順に記すと、マスネ Massenet「マノン Manon」、ビゼー Bizet「カルメン Carmen」、オーベール Auber「フラ・ディアボロ Fra Diavolo」、ヴェルディ Verdi「エルナーニ Ernani」、ベッリーニ Bellini「清教徒 I puritani」、ヴェルディ「シチリアの夕べの祈り I vespri Siciliani」である。なお「スカラ座の宵」はパヴァロッティ Pavarotti, Luciano (1935-) が歌う CD「イタリアン・ラヴ・ソング」(ポリドール POCL-2473, 1991) で聞くことができる。さらに補足すれば「姿焼きの唄」の歌詞「花鯛めでたい鯛よ／さかなの王様よ」は『放浪記』に挿入された詩の一節「鯛はいいな／甘い匂いが嬉しいのです」(309頁)を踏まえて

作られたと考える。

- (7) 『太鼓たたいて笛ふいて』の劇中歌のうち「椰子の実」だけは藤村が作った通りの歌詞で歌い、島崎こま子という人物にリアリティを持たせている。
- (8) 井上のガーシュイン愛好については坂本 2012 参照。
- (9) ベートーヴェンの編曲民謡は彼の創作活動の中でも主要な分野と見なされていないので日本ではほとんど歌われないが、井上が自作品で用いた編曲民謡の日本語タイトルから推測すると井上は『ベートーヴェン全集第6巻』(東京：講談社 1999年)を聞いた可能性がある。これが発売されて日本でもベートーヴェンの編曲民謡をまとめて聞けるようになった。

参考文献.

- 伊藤恵子 (2005) 『チャイコフスキー』東京：音楽之友社
- 井上ひさし (1982) 「意味より音を2」『パロディ志願』(中公文庫)所収、初出は1973、188～190頁、東京：中央公論社
- 井上ひさし (1986) 「連続対談 ひさし劇場③」『きらめく星座—昭和オデオン堂物語』(集英社文庫)所収、203～214頁、東京：集英社
- 井上ひさし (1998) 「好きで嫌いで好きなアメリカ」『餓鬼大将の論理』(中公文庫)所収、初出は1991、72～77頁、東京：中央公論社
- 井上ひさし (2002) 『太鼓たたいて笛ふいて』東京：新潮社
- 井上ひさし (2005) 『太鼓たたいて笛ふいて』(新潮文庫)東京：新潮社
- 井上ひさし (2010a) 『井上ひさし全芝居 その六』東京：新潮社
- 井上ひさし (2010b) 『井上ひさし全芝居 その七』東京：新潮社
- 貴志哲雄 (2006) 『ミュージカルが《最高》であった頃』東京：晶文社
- 坂本麻実子 (2003) 「歌声と声色—『黙阿彌オペラ』の一考察—」『富山大学教育学部研究論集』第6号、9月、87～93頁
- 坂本麻実子 (2004) 「役者に歌わせる井上ひさしの手法—『頭痛肩こり樋口一葉』の場合—」『桐朋

- 学園大学研究紀要』第30集，10月，37～48頁
- 坂本麻実子（2009）「井上ひさしと6人の役者による音楽劇」『富山大学人間発達科学部紀要』第4巻第1号，11月，135～140頁
- 坂本麻実子（2011）「井上ひさしのヴァイルのメロディー-尽くし-『夢の裂け目』の音楽的趣向について-」『富山大学人間発達科学部紀要』第5巻第2号，3月，113～122頁
- 坂本麻実子（2012）「ステージピアニストの作り方-井上ひさしの音楽劇のピアニスト考-」『富山大学人間発達科学部紀要』第6巻第2号，3月，235～241頁
- 扇田昭彦 [編]（2011）『井上ひさし』東京：白水社
- 林芙美子（2010）『放浪記』（新潮文庫）東京：新潮社

（2012年10月22日受付）

（2012年12月19日受理）